

簡易な調査票を用いた子どもの日常的な行き先とよく使う道に関する調査：幹線道路が横断する学区を対象として

山田 敦基¹・寺内 義典²・稲垣 具志³・橘 たか⁴

¹非会員 国士舘大学 理工学部理工学科 (〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1)
E-mail:archatsuki@gmail.com

²正会員 国士舘大学 理工学部理工学科 (〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1)
E-mail:terauchi@kokushikan.ac.jp

³正会員 日本大学 理工学部交通システム工学科 (〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1)
E-mail: inagaki.tomoyuki@nihon-u.ac.jp

⁴正会員 二子玉川商店街振興組合 (〒158-0094 東京都世田谷区玉川3-15-12)
E-mail:futako.t@gmail.com

本研究は、小学校の児童を対象として、子どもの行き先とよく使う道について、簡便な調査票を用いて調査し、子どもの日常的な行動と道路利用の現状を明らかにした。対象は、世田谷区内の2小学校である。それぞれについて、小学校を中心として指定される通学路は、子どものよく使う道をカバーすることができていないことが示された。特に、学区外からの越境通学者や学区外での習い事存在、および小学校を中心とした放射状の通学路指定に問題がある。また、幹線道路が学区内を横切る地区を対象とした結果、通学時以外に通学路指定されていない交差点で多く横断がなされていることが明らかとなった。

Key Words : *Route choice, Questionnaire, Survey, Traffic Safety*

1. はじめに

通学中の児童が被害にあう事故が相次いだ¹⁾ことから、通学路の交通安全を求める声が高まっている。これを受けて、文部科学省・国土交通省・警察庁は対策の検討を始めている²⁾。子どもたちが使う道路は、通学路だけではなく、遊びや習いごとのために使う道もある。また、通学中は事故に遭わないようにルールを守って危険箇所を通らないよう交通安全教育が徹底されるが、それ以外の移動でも実践されているかはわからない。むしろ、子どもの生活範囲の生活道路をゾーンで指定し安全対策をはかることが望ましいと考える。

本研究は、これまで重視されてこなかった小学生の通学以外も含めた道路利用に着目し、その実態を明らかにすることを目的とする。ここでは、まずこの調査には費用や運用面で困難があるGPSを用いる方法を提案する。さらに、その調査票を用いて学校以外の行先や子どもの利用する道路の分布を調査する。調査対象は、世田谷区

内の2小学校 (M小・F小) とした。

2. 調査票の概要

(1)M小の調査票

防犯意識の高まりを受け、M小学校では長期休業を利用した親子での通学路点検を実施した。こどもが日常的に利用する道路について、親子で点検する防犯の取組であり、点検対象は通学路に加えて普段よく使う道も対象となった。ここで作成された調査票を図1に、また、調査票への記入項目を表1に示す。

(2)F小の調査票

M小の調査票を参考に調査票を作成した。ここでは、小学校の教室において短時間に調査が完了するものとした。作成された調査票を図2に、調査項目を表1に示す。よく使う道路を地図に記入してもらったものとした。(このなかに通学路が含まれることは妨げない。)小学生が

短時間で記入方法を理解し間違いなく記入してもらえるように、まずよく行く場所3ヶ所（頻度を1週間に1回以上とした）を地図上に記入してもらおう。次に、このよく行く場所に到達するために使う道路を記入してもらった。時間があまった児童には、よく行く場所とする活動の内容や目的を記入してもらった。

表-1 M小とF小の調査票の概要

	M小調査票	F小調査票
目的	防犯	交通安全
作成	小学校・PTA	本稿著者
個人属性	学年、クラス	学年、クラス
道路	通学路 よく使う道	よく使う道のみ
自宅位置	記入は任意	およその位置を記入
目的地	遊び場の場所を記入	よく行く場所の位置と目的を記入（3カ所まで） （遊び場、塾・習い事、お店、他）
その他	危険箇所、避難場所を記入	



図-1 M小 マイマップアンケート

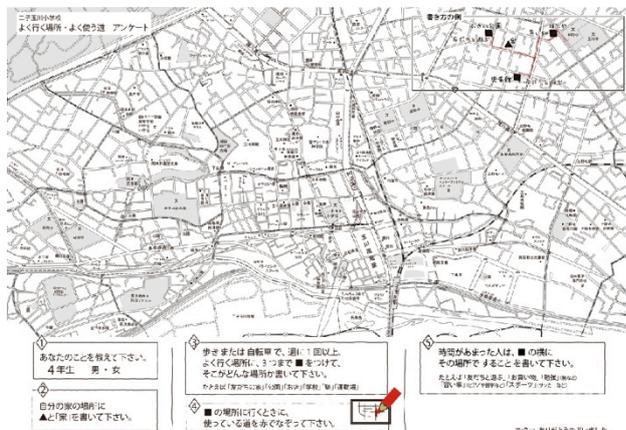


図-2 F小 よく行く・よく使う道アンケート

3. 調査実施概要

(1) M小アンケート集計

2005年12月から2006年1月にかけて、親子での通学路点検が実施され、小学校により調査票が回収された。M小学生の回収結果を表-2に示す。M小の全児童の調査票を回収し、その調査票から通学路とよく使う道を読み取りGISに入力する。さらに遊び場や自宅が読み取れるものについてもGISに入力した。

表-2 M小学校アンケート回収結果

学年	一年	二年	三年	四年	五年	六年	計
人数	36	30	34	34	44	35	213

(2) F小アンケート集計

F小学生を対象としたアンケートの合計は表-3に示す。アンケート内容は対象児童の自宅、通学路、よく使う道、よく行く場所をアンケート上に記入してもらった。以上の結果をGISのリンク番号と座標を用いてエクセルに集計する。

表-3 F小学校アンケート回収結果

学年	四年	五年	六年	合計
人数	92	92	94	278

アンケート中の様子については先生がたの最初に短い説明のみで、記入に取りかかり円滑に実施できた。児童は10分程で全て記入し終わる子がいたという。以上から、学校の負担の少ない子どもの日常行動についての調査方法を提供できた。

4. 調査結果

(1) M小学校指定通学路と実態通学路の違い

M小学校の指定通学路は、学校を中心に各地区に放射状に伸びている。また、幹線道路の横断箇所は歩道橋のある1カ所のみとなっている。この指定通学路と児童が実際に通学に使っている道路をGISを用いて図3に示す。

実際に使われている通学路の範囲は、ほぼ学区内にある納が、学区内の指定通学路に含まれない細かい道が多く使われていることがわかる。また、幹線道路を横断する際に自宅所在地の関係から指定通学路に含まれない横断箇所を利用することもあった。

(2) M小のよく使う道と指定通学路

よく使う道は、指定通学路よりも広い範囲の街路を使っている、学区を越えた南側にある大規模な公園や、西

側の駅周辺の商業地域に向かって延びていることが図4からわかる。

(3) F小 よく使う道と指定通学路

F小学校の指定通学路は広くネットワーク状に通学路を指定している多くのよく使う道が指定通学路に重なっている。しかし、図5と表5で示されているように、学区外から通うこどもの数と、遊び場所や習い事を目的とした学区外の利用が多く、広範囲にわたるため、学区内の指定通学路だけではカバーしきれないことが明らかとなった。

(4) M小 学区と行き先

よく行く場所の集計はGISにより、図4のように地図上にポイントで位置を記入し、表4にまとめた。

M小学校での調査票から278名で、284箇所の遊び場と212箇所の自宅を読み取った、これを表3に示す。

自宅不明が53件と多いがそれを除くと図3のこども達の通学経路を見ると学区外からの通学者は少ない。しかし、表3のよく行く場所を見てみると1/3の遊び場が学区外に、広範囲に分散していることが図4からもわかる。このことから、M小学校は学区外の交通安全対策が必要であると考えられる。

(5) F小 学区と行き先

よく行く場所の集計はGISを使い入力した。図5のように地図上にポイントで位置を記入し、自宅の所在を表5へ、よく行く場所の詳細を表6にまとめた。

1人に対してよく行く場所を3箇所まで記入してもらったため全行先はのべ計601箇所あった(内未回答は除く)。学区外に行先はのべ計95箇所。学区内の行き先はのべ計506箇所。通学路に面した行先は、のべ計268箇所。このことから、範囲としては高い確率で学区内ということがわかったが、通学路に面していない行先は必然と全ての行き先の半数以上だということがわかった。

自宅の所在地は学区内が176に対し学区外が102と非常に多いことが表5からわかる。また、よく使う場所を目的別に示した表6からは学区外での遊び、習い事の割合が多いことがわかる。このことから、F小学校は学区外の交通整備が必要であると考えられる。

(6) 横断箇所の集計

幹線道路の横断は指定通学路の歩道橋を使う子どもは少なく横断歩道を過半数の子ども達が使っていることが表7からわかった。

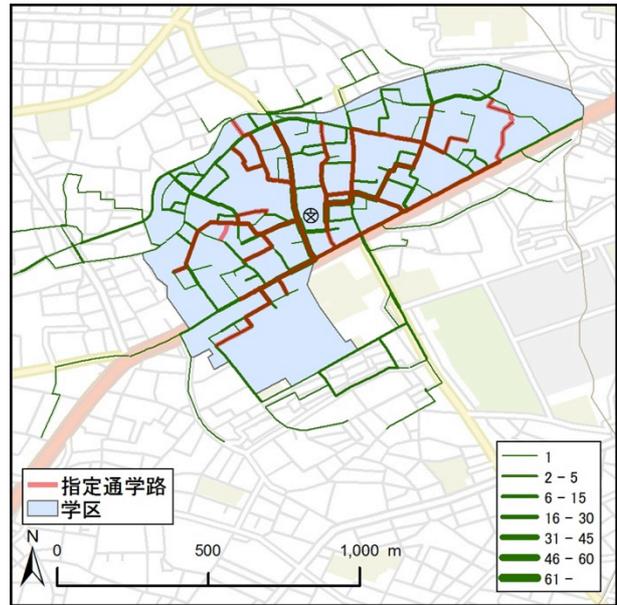


図-3 M小 指定通学路と実際の通学路

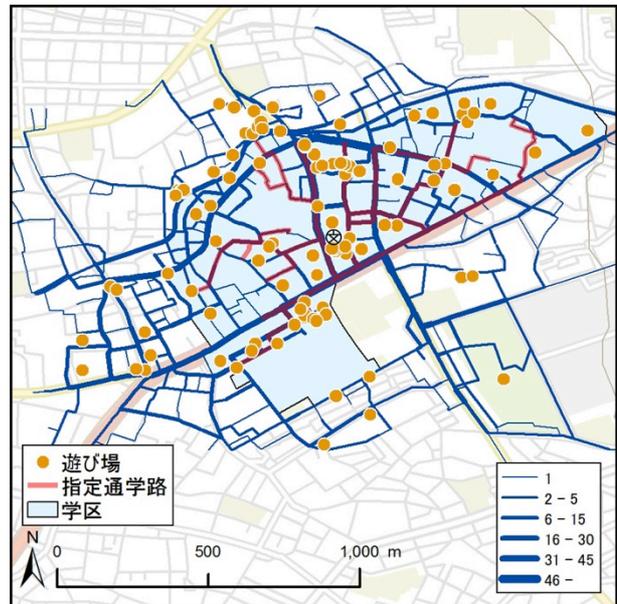


図-4 M小 よく使う道と指定通学路

表-4 M小 自宅とよく行く場所

	学区内	学区外	不明	合計
自宅	143	16	53	212
よく行く場所	186	98	0	284

表-5 F小 自宅所在地の集計

	学区内	学区外	不明	合計
自宅	176	102	0	278

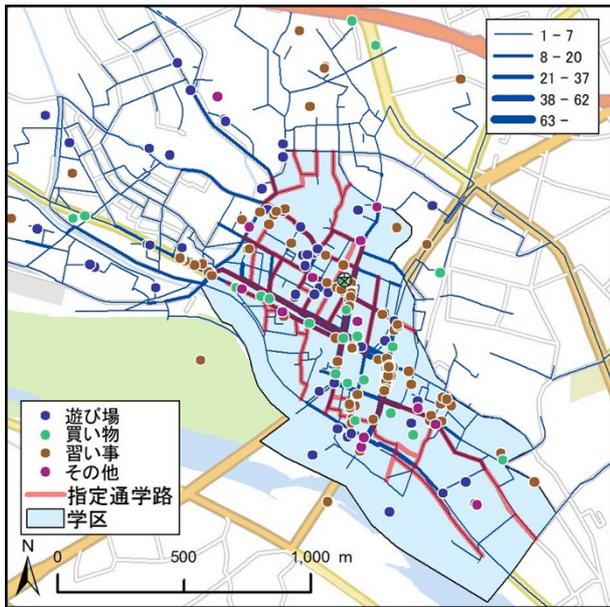


図-5 F小 よく使う道と指定通学路

表-6 F小 よく行く場所 (目的別)

	学区内	学区外	不明	合計
遊び	80	46	0	126
習い事	71	40	1	112
買い物	143	7	4	154
その他	204	5	0	209

表-7 アンケート結果

	池尻信 号	三軒茶屋 駅前	三宿信 号	歩道橋	合計

通学路	3	0	4	30	37
よく使う道	1	10	15	5	31

5. おわりに

本研究は、小学校の児童を対象として、子どもの行き先とよく使う道について、簡便な調査票を用いて調査し、子どもの日常的な行動と道路利用の現状を明らかにした。対象は、世田谷区内の2小学校である。それぞれについて、小学校を中心として指定される通学路は、子どものよく使う道をカバーすることができていないことが示された。特に、学区外からの越境通学者や学区外での習い事存在、および小学校を中心とした放射状の通学路指定に問題がある。また、幹線道路が学区内を横切る地区を対象とした結果、通学時以外に通学路指定されていない交差点で多く横断がなされていることが明らかとなった。

謝辞：この調査集計についてM、Fの両小学校に多大なる協力を得た。またM小調査には梅津政之輔氏に、F小調査ではアンケート票の作成と実施にあたり校長の小宮豊先生よりご指導とご尽力をいただいた。本調査のデータ入力・集計には、元国土館大学理工学部の輪島愛・塩崎雄大の両君が尽力した。ここに記して感謝する。

THE DAILY ACTIVITY AND ROUTE CHOICE OF ELEMENTARY SCHOOL STUDENTS

Atsuki YAMADA, Yoshinori TERAUCHI, Tomoyuki INAGAKI, Taca TACHIBANA

The purpose of this study clarify the daily route choice of the child using questionnaire survey. First We offer a simple method to investigate the route choice of the primary schoolchild. Then, I carried out an investigation to the child of 2 elementary schools at Setagaya-city. The Route choice of children, has run off a school route the school specified. One of the reasons is that the destination of the children are through the whole area distributed.As for other cause, a house and the destination of the child are things outside the school district.The traffic safety measures for children, it is necessary not only school route, work in the zone